

宇宙飛行士



あるあるネタ

- 「宇宙食っておいしいの？」と聞かれる率が異様に高い。
- 無重力での癖が地球に戻っても抜けず、ついモノを浮かせた気になる。
- ISSから帰還後も、目覚めると“ここは地球か？”と確認したくなる。

初期の失敗

訓練中、模擬宇宙船内での作業で、焦ってマジックを宙に投げてしまい、探すのに5分かかりました。どんなに鍛えたつもりでも“浮く世界”の感覚は一筋縄ではいかないと実感しました。

職業病

夜空を見ると「高度何kmかな？」「あの星の後ろ、軌道通るかも」と脳内で軌道計算が始まる。飛行機に乗っても「この程度の高度か…」と無意識に比較。

健康問題

無重力空間では筋肉と骨密度が急速に減少するため、帰還後にリハビリが必須。さらに平衡感覚の乱れ、宇宙酔い、眼圧変化による視力低下など、地球では想像しづらい体調変化が頻発します。

その職業に就いている人を讃える

あなたはまさに“重力の枠を超えて未来をつかむ探究者”ですね。青くて丸い地球を、宇宙の静けさから見つめなおすその視線には、科学とロマンの両方が宿っています。数十年後、「この星に帰ってきたい」と思う子どもたちが、あなたの背中に夢を重ねることでしょう。たとえ身体が地球に戻っても、心はまだ無重力かもしれません。これからもその冷静な判断と情熱で、人類の歩幅を少しだけ宇宙に近づけてください。腰と骨密度、大事にね！